



2018年3月30日

各 位

会 社 名 株式会社ジーフット
 代 表 者 代表取締役社長 堀江 泰文
 (コード番号：2686 東証第一部・名証第一部)
 問 合 せ 先 I R広報部長 村瀬 透
 電話番号 03-5566-8215
 当社の親会社 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号：8267 東証第一部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2017年9月20日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2018年2月期通期個別業績予想数値の修正 (2017年3月1日～2018年2月28日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	100,000	3,000	3,000	1,350	31円75銭
今回発表予想 (B)	97,282	2,238	2,279	751	17円67銭
増減額 (B-A)	△2,717	△761	△720	△598	
増減率	△2.7%	△25.4%	△24.0%	△44.3%	
(ご参考) 前期実績 (2017年2月期)	102,224	5,005	5,027	2,680	63円3銭

2. 修正の理由

当事業年度における我が国の経済は、企業収益や雇用環境の改善により緩やかな回復基調にあるものの、不安定な国際情勢に対する懸念や少子高齢化への不安から依然として個人消費は伸び悩み、先行き不透明な状況が続いています。また、靴小売業界においても他業種の靴小売事業への参入やEコマースの急成長により消費チャネルがより多様化し、競争激化とともに経営環境は厳しさを増しております。このような環境に対応すべく当社は、「商品の改革」「売場の改革」「働き方の改革」の3つの改革を軸とした経営戦略を進めてまいりました。

しかしながら、当事業年度におきましては、お客さまの価値観の変化(カジュアル化、ノンシーズン化、機能価値本位)への対応が不十分であり、シーズン商品依存度の高い婦人靴、カジュアル化の流れに対し品揃えの改革が遅れた紳士靴において売上の低下を招きました。

また、マーケティング不足による市場トレンドの変化への対応の遅れから、好調であったスポーツ靴に

においても第3四半期以降売上減少トレンドに陥りました。

客数においては新価格体系を強化したことで、回復へ一定の成果が得られたものの、機能価値商品開発がウエルネスライトインソール搭載商品の拡充などの限定的施策で終わったことにより、客単価の減少トレンドに歯止めがかからず既存店売上高の下振れが大きく、前回予想の売上高を下回る見込みとなりました。

また、機能価値商品の開発・提案・広告宣伝が不足したことでPB商品（プライベートブランド）売上構成比が減少し、売上総利益率も低下したことから、営業利益・経常利益につきましても前回予想を下回る見込みとなりました。以上の業績低迷を主要因として、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損損失を5億99百万円（概算）計上するため、当期純利益につきましても前回予想を下回る見込みとなりました。

なお、配当予想につきましては、既に1株当たり中間配当金10円を実施しており、期末配当金につきましても当初の予想（期末配当10円で年間合計20円）から変更はありません。

※ 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる結果となる可能性があります。

以 上